

第1回 焼津市地域総合交通体系あり方検討委員会
議事要旨

日 時：平成28年8月19日（金） 14：00～15：40

場 所：焼津市役所 会議室棟 101号室

■委員（敬称略）

愛知工業大学教授	伊豆原 浩二（委員長）
南山大学教授	石川 良文（副委員長）
焼津商工会議所	畑 昇
大井川商工会	小澤 代輔
自治会連合会会長	丸山 昭夫
静岡運輸支局	鈴木 成幸
静岡県地域交通課	林 聖久
焼津市未来創造部長	杉本 瑞穂
焼津市都市基盤部長	秋山 藤治

■事務局

焼津市都市基盤部都市計画課

<配布資料>

会議次第、設置要綱、名簿

資料1 焼津市地域総合交通体系あり方検討委員会について

資料2 焼津市における地域公共交通の現状

説明用資料

焼津市自主運行バス路線図

(1) あり方検討委員会の開催について

*資料1 P1 説明(事務局)

委員長 : 本委員会のアウトプットは「望ましい公共交通ネットワークのあり方」である。「望ましい」が気になるところであるが、地域住民が住みやすい公共交通のあり方について検討していきたい。よろしく願います。

(2) 焼津市の現状について

*資料2 説明(事務局)

委員 : 平成26年度以降、収支率、乗降者数が増加しているとの説明があったが、その要因を教えてください。

事務局 : 藤枝相良線については、平成26年4月、吉田高校と大井川高校との再編整備により清流館高校が開校したが、吉田町方面からの通学者利用が増加要因であると把握している。藤枝吉永線の増加要因は把握していない。焼津循環線は休日利用が増加しており、焼津駅やさかなセンターでの乗降が多い。大井川焼津線は、再編後の運行内容について使い慣れた人が増え、利用者数が増加したと分析している。

焼津大島線は、市立病院周辺を運行しており、この地域は人口が増加傾向にあり、商業活動も活発な地域である。また静岡福祉大学の通学者利用が増加要因であると把握している。

委員 : 説明資料のP14では、焼津大島線と一色和田浜線の利用者数は同程度であるものの、P16では一色和田浜線だけ財政負担を行っているが、その理由は何か。

事務局 : 運行距離が違うため、一色和田浜線の方が経費が高くなる。焼津大島線は黒字路線のため、市では負担をしていない。なお、説明資料P16の表は、路線毎の市の赤字負担額である。焼津岡部線、五十海大住線、藤枝吉永線、一色和田浜線には、市のみならず国、県の補助が入っている。藤枝相良線については、国県補助は入っているが、市の補助はしていない。

委員長 : 運行経費と公的負担(国、県、市)を明確にしておく必要がある。合せて、支線、幹線などの補助の仕組みを整理しておく必要がある。

事務局 : 承知した。

委員 : 4つの問題提議を再度説明してほしい。

事務局 : 1番目、今後のまちづくりと整合した公共交通ネットワークの検討が必要である。
2番目、公的負担で担保できる公共交通ネットワーク及びサービス水準の検討が必要である。
3番目、収支率が低い、利用者が少ない自主運行バスのあり方の検討が必要である。
4番目、公共交通空白地域における移動手段の確保について検討が必要である。

- 委員** : 資料2のP7、市民の満足度が平成27年度に急激に低下しているが、これに対するコメントを頂きたい。
また、説明資料のP16の負担額、P15の平均利用者数等のデータをみると、大井川循環線の再編により経費が増大し、利用者数が増えずに収支率が悪化しているように見えるが、それに対する考えを聞かせていただきたい。
- 事務局** : 市民満足度を地区別にみると、バスが運行していない地区の満足度が低くなっており、それに引っ張られて全市の満足度が低くなったと考えている。
大井川循環線の再編については、再編により走行キロが増加したものの、再編後の利用者数には変化がない。路線別では、大井川焼津線は増加傾向にあるが、それ以上に大井川西部循環線の利用者が減少している。アンケート調査結果を踏まえて、交通空白地域（上小杉）の解消や焼津駅への直通便の運行などを実施したが、予測に反して利用者数が伸びず、収支率を悪化させた原因になっていると考えている。
- 委員** : 地域の意見を踏まえて実施した再編が、結果として収支率を悪化させることがあるため、評価を実施し、対策を考えていただきたい。
- 委員** : 大井川西部循環線が運行する上新田に住んでいる。大井川地区は、通勤や通院に関しては藤枝と結びつきが強い地域と認識している。藤枝市を交えた新しい公共交通ネットワークを検討する意気込みがあるのか、お伺いしたい。
また、先日の回覧板に、大井川西地区のバス停と焼津市立病院の連携時間を示した時刻表が入っていた。この時刻表で、焼津市立病院に行けることを知ることができ、このような取組みを有難く感じた。
そのお知らせの中に、「藤枝駅方面への路線バスも積極的に利用してください」との記述があった。焼津市中心部へのバスの利用を促す一方、藤枝方面へのバス利用も促すなど、焼津市としての公共交通の方向性を理解できないところがあり、考えをお聞かせいただきたい。
- 事務局** : 藤枝市との広域連携については検討中である。
配布した時刻表は、作成して3年目である。委員の話を聞いて、周知方法の問題を感じている。
地域の公共交通ネットワークの中で、藤枝吉永線は幹線という位置付けをしている。そのため、藤枝吉永線を継続するために、市も応援していきたいという意向である。
- 委員** : 2つの路線が地域内を運行しているため、地域への説明も必要になると考えている。勉強していくので、よろしく願います。
- 委員** : 地域総合交通体系のあり方を検討するにあたっては、総合連携計画の評価を行うべきではないか。プロセスの評価を行うことで課題が見えてくるのではないか。
- 事務局** : 評価については、委員にも相談しながら進めていきたい。
- 委員** : 説明資料のP7、市民満足度について。これは、市民意識調査、市民3000人を無作為抽出したアンケート調査である。バスが運行していない地域の人も回答していると思うが、

バス路線のカバー人口を教えてください。

また、目標とする平均利用者数（P15）、目標とする自主運行バスの収支率（P17）が設定されていれば教えてください。

事務局 : バス路線のカバー率は、平成 25 年時点で人口の 93%であった。これは、バス停からの 300m圏内のカバー率であり、バスの運行密度は考慮されていない。

平均利用者数については、自主運行バスは、焼津循環線の人数程度乗っていただければよいと思っている。路線バスは、平均乗車密度 5 人が収支率の分岐点と聞いているため、そこが目指すところである。

自主運行バスの収支率は、市の負担はあるものの、焼津循環線程度であればよいと考えている。

委員長 : 連携計画策定後、どのような PDCA を行ってきたのかが見えない。公共交通ネットワークのあり方検討を行うのであれば、連携計画におけるプランニングの意図、実行内容、チェック結果を整理して頂きたい。

全国的にバス利用者が減少する中、焼津大島線の利用者が増加している。この要因について分析しておく必要がある。

しずてつジャストラインの意向、事情（バス運転手の不足等）を整理した上で、公共交通ネットワークを検討した方がよい。

結節点に求める機能は何か。現状でどの程度結節点で乗り換えがされているのか、分析を行う必要がある。

都市計画マスタープランに基づき、どのような公共交通ネットワークをつくりあげるかが重要なポイントである。

委員 : 説明資料の P8、10 月より下根方地区デマンド型乗合タクシーの実験運行を行うとあるが、地区住民とどのような意見交換をし計画立案に至ったのか、また周知方法についても教えていただきたい。

事務局 : 平成 25 年度にアンケート調査を実施したものの、利用意向者は少ない状況であった。

そのため、平成 26 年度に 30 世帯毎に説明を行い、制度の周知を図った。

平成 27 年度には、市から運行内容の提案を行い、利用意向を確認している。

今回、アンケート調査を行った上で、ダイヤを決定している。

8 月 10 日時点で事前利用登録は 95 世帯、227 人である。利用していただくために、役員の方等と話し合いをできる場をつくっていきたいと考えている。

委員長 : 実験期間は年度内（半年）か。

事務局 : 運輸支局へは、平成 28 年 10 月から平成 29 年 9 月までの 1 年間で申請をする予定である。ただし、3 ヶ月、6 ヶ月時点で地元と話し合いながら、運行内容を変更することも考えている。

委員長 : やめる判断はあるのか。

事務局 : 実験期間中については、継続を前提とした変更を考えている。

委員長 : 住民は「乗合」を理解しているのか。デマンド交通は、利用者が増加すればするほど事業費が増加することもあり得る。どのような評価を行うかは、地元住民と十分に話し合っ

ておく必要がある。

実験から次のステップへどのように展開するか、住民も含めて皆で議論して頂きたい。
また、デマンド交通は、帰りの便の利用者が少なくなる傾向がある。意向調査と実際の利用では違う事が考えられるため、住民自身が上手な使い方を考えることができるように仕組んでいくことが重要である。

タクシー会社は決まっているのか。

事務局 : 決まっている。ダイヤも事業者と調整している。

委員 : 利用者数、事業費だけの評価だけではなく、利用者、非利用者から意見を収集し、チェックに活用できるようにして頂きたい。

委員長 : 大事なことであるため、是非願います。
デマンド型乗合タクシーが、皆に使って頂けるようになるとよいと考える。

(3) 今後の進め方について

*資料1 P2 説明(事務局)

委員長 : 次回以降、公共交通ネットワークの改善策、あり方について議論して頂く。
立地適正化計画は作成するのか。

事務局 : 予定はあるが、この1~2年で策定に入ることはない。

委員長 : 都市計画マスタープランが前提条件と考えればよいのか。

事務局 : はい。

委員長 : まちづくりの視点は、都市計画マスタープランを確認しながら進めていただきたい。
結節点については、非常に気になっている。結節点には待合環境といったハード面だけでなく、ソフト面も含めた機能の充実が必要なのではないか。今後、機能に対する提案を頂ければと思う。

この他気づいた点があれば、事務局に提案して頂きたい。